

## シラバス記載モデル

時間割番号：9999 科目区分：教職専門科目 2単位 後期：水曜日 1・2時限  
 授業科目名：生徒理解と指導（進路指導を含む） 教員名：〇〇〇〇  
 授業の方法：講義 該当する年次：学校2、他

### Cuffet 項目（学部）

5. 子ども理解

### 到達目標

本授業の到達目標は、下記の4点である。

- ①生徒指導（進路指導）の意義と課題を理解している。
- ②青年期の心理と多様な生徒理解の方法を理解している。
- ③学校で生起する生徒指導上の諸問題への対応と方法を理解している。
- ④生徒指導における教育相談の意義と進め方を理解している。

### 関連する SDGs のゴール



### 授業の概要

この科目においては、学校現場で課題となっている〇〇を主なテーマに、生徒の〇〇について理解を深めていきます。教職科目として〇〇の意義への関連も・・・。

### カリキュラム・フレームワーク上の位置（専門職学位課程・修士課程）

（専門職学位課程） ※入力不要

（修士課程） ②研究力・③社会へ貢献する力量

### キャリア教育についてのレベル（専門職学位課程）

（記入不要）

### 授業計画（内容と方法）

授業は原則として、Teams ビデオチャットを用いたリアルタイム方式で行います。また、授業の資料（電子データ）配布や課題提出は、Moodle を用います。  
 対面授業の実施については、授業内で説明します。  
 第1回目の授業は、非対面で行います。事前にチームコード(abcdef)を入力してチームに参加し、授業時間になりましたら Teams の一般チャネルからビデオチャットに参加してください。

注)参加コード・URL 等を書く場合、ご自身でよく確認の上、正しく記載してください。

すべての生徒の健全な発達を促す生徒指導の視点から、思春期・青年期の心理に触れながら生徒指導上の諸問題について講義と演習を織り交ぜて行う。概ね、下記の内容で進める。

- 1 オリエンテーション・生徒指導の意義と課題
- 2 生徒指導の原理
- 3 青年期の心理と生徒指導
- 4 生徒理解
- 5 生徒指導と教育課程
- 6 進路指導の意義と課題
- 7 進路指導の原理と方法
- 8 学校における生徒指導・進路指導体制
- 9 生徒指導における教育相談の意義と進め方
- 10 進路指導における教育相談の意義と進め方
- 11 青少年非行の現状と対応
- 12 いじめの現状と対応
- 13 不登校の現状と対応
- 14 開発的・予防的視点にたつ生徒指導の在り方
- 15 まとめ
- 16 試験（試験を実施しない場合は、記載は不要です。）

### テキスト、参考図書、教材等

必要に応じて資料を配布する。以下、参考図書

〇〇〇〇監修「図説生徒指導と教育臨床」北大路書房 1993

〇〇〇〇「いじめ解決への教育的支援」日本教育新聞社 1997

〇〇〇〇他編「心の教育とカウンセリングマインド」東洋館出版社 1999

〇〇〇〇総監修「学校カウンセリングの理論と実践」ナカニシヤ出版 2007

### 評価方法

①最終試験にて、学習内容に関する知識・理解の定着度を到達目標に照らして評価する。(評価割合：60%)

②生徒指導に関する意欲・授業への取り組み態度の評価を以下で行う。

・毎回の「感想ノート」の提出(評価割合：15%)

・生徒指導に関するレポートの提出2回<課題は、講義中に提示>(評価割合：25%)

### 準備学習・時間等

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと(目安時間 60 分)。また、毎回の授業の最初に前回の授業内容について小テストを実施するので、よく復習しておくこと。

### 実務経験のある教員等による授業科目

本授業は、以下の実務経験のある教員により、実務経験を生かして実施します。

☒担当教員

☐教員養成実施指導講師

☐ゲスト講師

(自由記述欄)

中学校の現場経験を持つ担当教員が、学校現場での経験を生かして、生徒指導に係る実践的教育を行っている。

### 受講上の注意、メッセージ等

生徒指導に関する知識の獲得、演習によるスキルの獲得、感受性の開発の3つをキーワードに進めます。up-to-date な問題も取り上げますが多様な視点からの確に対応できる教員の養成を目指します。

オフィスアワー：毎週〇曜日(13:00-14:30) 〇〇研究室にて行っています。

メールアドレス：・・・・@cc.nara-edu.ac.jp

## シラバス作成に係る記入方法及びチェックリスト

学務情報システムで閲覧の際、文字化けしますので、記号文字、半角文字は用いず、全角で入力してください。読点は、「、」ではなく、「,」で入力願います。

### 【Cuffet 項目】(学部)

- ・教育学部カリキュラム・フレームワークの「Cuffet 項目」の中から該当するものを1つ選択してください。

|  |                                       |
|--|---------------------------------------|
|  | 学部の授業科目について、該当する「Cuffet 項目」が記載されているか。 |
|--|---------------------------------------|

### 【到達目標】

- ・カリキュラム・フレームワークに基づいて到達目標を設定してください。
- ・同一名称の授業を複数の教員が複数のクラスで実施する場合、到達目標の設定、評価の在り方等について協議してください（成績評価において担当教員による著しい偏差が生じないようにするため）。
- ・到達目標は、学生が授業を履修すると「こんなことができるようになっている」ということが理解できるような記載にしてください。
- ・学生を主語として、履修者の行動を具体的に示す表現「・・・ができる」「・・・を説明できる」「・・・を実施できる」「・・・を理解している」「・・・を身に付けている」などにしてください。
- ・教員を主語として、授業の目標や方法を示す表現「・・・を理解させる」「・・・を概説する」は適切ではないので、用いないでください。

|  |                                   |
|--|-----------------------------------|
|  | カリキュラム・フレームワークに基づいて到達目標が設定されているか。 |
|  | 具体的な到達目標が記載されているか。                |

### 【関連する SDGs のゴール】

- ・授業内容に関連する「SDGs17 のゴール」を選択（複数選択可）してください（関わるものがない場合は入力不要です）。
- ・関連の確認には、SDGs17 のゴールの下位にある「169 のターゲット」も参照してください。

|  |                                   |
|--|-----------------------------------|
|  | 関連する目標が選択されているか（関わるものがない場合は選択不要）。 |
|--|-----------------------------------|

### 【授業の概要】

- ・授業科目の概要やねらい、受講の意義等を記載してください。

|  |                      |
|--|----------------------|
|  | 科目の概要、ねらい等が記載されているか。 |
|--|----------------------|

### 【カリキュラム・フレームワーク上の位置】(専門職学位課程・修士課程)

- ・専門職学位課程は、カリキュラム・フレームワークの「コア・スタンダード」から該当するものを1つ又は複数選択し、それをテキスト形式で記載してください。
- (※専門職シラバスは、システム不具合のため、入力不要です。)
- ・修士課程はカリキュラム・フレームワークの「CF 項目」の中から該当するものを1つ又は複数選択してください。
- ・旧カリキュラムの授業科目で、新カリキュラムへの読替えが行われないものは、従来の選択のままとしてください（読替えがある授業科目は、上記に従い新たに選択してください）。

|  |                                            |
|--|--------------------------------------------|
|  | 専門職学位課程の授業科目について、該当する「コア・スタンダード」が記載されているか。 |
|  | 修士課程の授業科目について、該当する「CF 項目」が記載されているか。        |

### 【キャリア教育についてのレベル】(専門職学位課程)

- ・記載は不要です。

### 【授業計画】

- ・「非対面」または「対面・非対面の組み合わせ」を選択した場合は、前項の続きに「非対面授業の際に使用するツール・アプリ名」および「第一回目の授業をどのような方法で行うか」も併せて記載してください。
- ・各回ごとの授業内容を記載してください。
- ・複数回に渡って同様のテーマを取り扱う場合は数字で区別するのではなく、回数ごとに扱うキーワードを記載してください。
- ・オムニバス科目の場合、各教員の担当部分がわかるように、どの教員がどの部分を担当するか明確に記載してください。
- (例) 第1回 ○○○○ (1) △△△△、××××
- 第2回 ○○○○ (2) ■■■■
- ・「授業の到達目標」に対応させて記載してください。
- ・日時の記載は行わないでください。

|  |                                                                                       |
|--|---------------------------------------------------------------------------------------|
|  | 「非対面授業」または「対面・非対面の組み合わせ」で行う場合は、「非対面授業に使用するツール・アプリ名」および「第一回目の授業をどのような方法で行うか」が記載されているか。 |
|  | 目的に沿った授業内容と方法が記載されているか。                                                               |
|  | スケジュールは、15週分記載し、試験を実施する場合は16週分まで記載されているか。                                             |

### 【テキスト、参考図書、教材等】

- ・必要に応じて、使用するテキスト・参考図書・教材の著書名、著者名、出版社名を記入してください。

|  |                        |
|--|------------------------|
|  | 著書名、著者名、出版社名が記載されているか。 |
|--|------------------------|

### 【評価方法】

- ・記載例：テスト 50%、レポート 20%、毎回のコメントシート 20%、授業への取り組み 10%
- ・授業学習への取り組み状況とは、授業態度、発表等への参加度等です。
- ・成績評価に関して、「出席状況を理由に加点または減点をする」という趣旨の表現はしないでください。「良好な出席を前提として成績をつける」「3 分の 1 以上欠席した場合には不可」という類の表現は「加点または減点をする」とは異なるので差支えありません。
- ・保育士資格取得に係る対象授業科目については、次のとおり規則が定まっているので留意してください。  
(保育士資格取得に係る対象授業科目の単位の認定)  
出席時間数が授業総時間数の 3 分の 2 (実習による授業科目にあつては、5 分の 4) に満たない者には、単位を認定しないものとする。(奈良教育大学履修規則第 16 条の 2 抜粋)

|  |                                               |
|--|-----------------------------------------------|
|  | 成績評価方法・観点（試験、レポート、学習への取り組み状況等）、配分割合が明記されているか。 |
|  | 授業への出席は、評価の前提としての記載はしてもよいが、評価割合には含めないこと。      |

### 【準備学習・時間等】

- ・授業時間を充実にしたものにするためには、教室外での自習を促し、自習時間の使い方について、学生に理解させると同時に、自習内容の具体的な指示をしてください。また、準備学修に必要な学修時間の目安を指示してください。
- ・1 単位の授業科目は、授業時間と授業時間外とをあわせて 45 時間の学修を必要とする内容で構成することを標準としています。授業時間外に行う自習内容に必要な学修時間の目安を指示してください。

|  |                                   |
|--|-----------------------------------|
|  | 準備学習（予習・復習・課題等）の具体的な指示が記載されているか。  |
|  | 授業時間外に行う自習内容に必要な学修時間の目安が記載されているか。 |

### 【実務経験のある教員等による授業科目】

- ・高等教育の修学支援新制度に伴い、当該項目を追加。実務経験のある教員等による授業科目に該当する場合、チェックをしてください。また、どのような実務経験のある教員が、どのような教育を行うのかを、自由記述欄に記載してください。

|  |                          |
|--|--------------------------|
|  | 該当する授業科目において、チェックがされているか |
|--|--------------------------|

### 【受講上の注意、メッセージ等】

- ・学生のニーズと授業内容とのミスマッチを防ぐため、事前に履修が必要な科目その他の前提条件等があれば記載してください。
- ・具体的な時間の指定をオフィスアワーは具体的な時間の指定を行ってください。
- ・学生からの問合せを受け付けるメールアドレスを記載してください。

|  |                                             |
|--|---------------------------------------------|
|  | 前提条件等（他の関連する授業の履修の必要性等）がある場合には、この欄に記載されているか |
|  | オフィスアワーとメールアドレスが記載されているか。                   |

### 参考：カリキュラム・フレームワーク及び SDGs のゴールの入力方法

#### 【教育学部カリキュラム・フレームワーク [Cuffet]】

[Cuffet 項目]

1. 現代社会と学校教育との関連
2. 教科、領域の内容・特性
3. 情報機器の活用
4. 1. 授業等の実践－計画
4. 2. 授業等の実践－実施
4. 3. 授業等の実践－評価
5. 子ども理解
6. 多様な人とのつながり
7. 教職キャリア形成

左記のプルダウンから 1 つを選択

【専門職学位課程カリキュラム・フレームワーク [P-Cuffet]】 ※システム不具合により入力不要

[コア・スタンダード]

1. 現代社会と学校教育等との関連
2. 教材、領域の内容・特性
3. ICT の活用
4. 授業等の実践
5. 子ども理解
6. 学校マネジメント・関係者支援
7. 研究
8. 教職キャリア形成

左記の中から1つ又は複数を入力（テキスト形式）

【修士課程カリキュラム・フレームワーク】

[CF 項目]

1. 各学問領域の発展に貢献する高度な力量
2. 研究力
3. 社会に貢献する力量

以下のプルダウンから1つを選択

01. ①各学問領域の発展に貢献する高度な力量
02. ②研究力
03. ③社会へ貢献する力量
04. ①各学問領域の発展に貢献する高度な力量・  
②研究力
05. ①各学問領域の発展に貢献する高度な力量・  
③社会へ貢献する力量
06. ②研究力・③社会へ貢献する力量
07. ①各学問領域の発展に貢献する高度な力量・  
②研究力・③社会へ貢献する力量

【SDGs のゴール】

1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロに
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
8. 働きがいも経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
10. 人や国の不平等をなくそう
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任 つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさを守ろう
16. 平和と公正をすべての人に
17. パートナリシップで目標を達成しよう

SDGs のアイコンを1つ又は複数クリックして選択